

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>令和2年6月定例教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、私の他5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。</p> <p>会議録署名人は、小屋松委員と西山委員とします。</p>
<p>日程第1 前回会議録等承認</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>5月15日開催の令和2年第5回臨時教育委員会会議録、5月28日開催の令和2年5月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>異議なしと認め、前回会議録等を承認することに決定します。</p>
<p>日程第2 事務局報告</p>	
<p>(1) 事業・行事等報告について</p>	
<p>○ 前回定例会議（R2.5.28）以降の事業・行事報告</p> <p>○ 今後の予定</p>	
<p>日程第3 議事</p>	
<p>・議第46号 熊本市奨学生の採用について</p>	
<p>《大江剛 指導課長 提出理由説明》</p>	
<p>西山忠男 委員</p>	<p>高校と大学は枠があるんですか。高校は何名とか、あるいは高校と大学の比率は何対何とか、そういう決まりがあるんでしょうか。</p>
<p>大江剛 指導課長</p>	<p>枠はございませんが、貸付月額等は、若干違います。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>いや、私の質問は、高校等が48名で大学等が15名となっていますね。この人数はどういうふうに案分したのかという質</p>

	問です。
大江剛 指導課長	この案分につきましては、それぞれ、高校等からの申請者と大学等からの申請者で分けまして、先ほどの審査基準該当者が、それぞれ、高校等と大学等で48人と15人ずつになったということです。
西山忠男 委員	審査基準を満たす者はこれだけしかいなかったという意味ですね。
大江剛 指導課長	そういうことでございます。
西山忠男 委員	はい、分かりました。
大江剛 指導課長	申し訳ございません。
遠藤洋路 教育長	他に、よろしいですか。
西山忠男 委員	もう1つ、いいですか。 他の奨学金との併用は認めないという制限がついていますが、これはチェックはされているのでしょうか。
大江剛 指導課長	他にも奨学金はございますけれども、併願といいますか、他の奨学金への申し込み状況は把握はしております。例えば県の奨学金等との兼ね合いに対しましては、お互い情報交換をしておりますので、ダブルというか両方で奨学金を借りるというようなことはないようにしております。
西山忠男 委員	奨学金はものすごくたくさん種類があるんですね、大学に行きますと。そういうのをチェックするのは不可能だと思いますから、自分で申告して、併願していませんという申告に基づいて与えるという理解でよろしいですか。
大江剛 指導課長	たくさん借りられると、当然返すときのご負担になりますので、そういったところの防止ということで複数から借りられないようにということです。当然借りられる方に対してはそういう自己申告をお願いしているということです。 以上です。

遠藤洋路 教育長	今のお話だと、他に借りていても申告しなかったら分からないということですか。
西山忠男 委員	そうですね。
大江剛 指導課長	たくさんの奨学金の種類はあると思いますが、特に熊本県との情報交換については、そういったことをやっているということです。
遠藤洋路 教育長	だから、例えば他の民間団体とかから借りていても、それは言われないと分からないということですよ。そこはある意味、それを信頼しているということですよね。
大江剛 指導課長	そこはまた、確認をしておきたいと思います。
遠藤洋路 教育長	確認というか、そういうことなのでしょう。それ以外しょうがないですもんね。そこは申請者が書いてくれることを信頼しているということですよ。 よろしいでしょうか。
苫野一徳 委員	これは無利子という理解でよろしいんですか。
大江剛 指導課長	そうでございます。
苫野一徳 委員	ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	他によろしいですか。 ないようでしたら、採決を行います。 議第46号 熊本市奨学生の採用について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。 (異議なしの声)
遠藤洋路 教育長	ご異議なしと認めます。 議第46号は、原案のとおり決定いたします。

[採決] 【原案どおり承認された】

・議第47号 令和3年度(2021年度)熊本市立高等学校入学者選抜の基本方針の制定について

《大江剛 指導課長 提出理由説明》

遠藤洋路 教育長

では、本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。

西山忠男 委員

後期(一般)選抜に関しまして、新型コロナウイルス感染症等を想定して追試験を考えられたというのは、大変いいことだと思うんですけども、3月9日、10日の後期(一般)選抜そのものが実施できないような事態も想定し得ると思うんですが、それについてはお考えはいかがでございましょうか。

大江剛 指導課長

昨年度もそういった事態も含めまして、いろいろ受検者本人、あるいは教職員等がもし罹患した場合というようなところでの対応をというところで、改めまして、そういったところも想定しながら本番の試験をどのようにしていくかというのを、また詳細については確認したいと思います。

遠藤洋路 教育長

ちなみに、去年度の3月には、どんな方法を考えていたんですか。

松島孝司 学校教育部長

昨年度、指導課長だった立場で、そのシミュレーション、実際はマニュアルを作成いたしまして、いろいろな段階を想定しまして、最悪の場合は、例えば学校の職員の中でクラスターが発生して、職員が対応できない場合も含めてマニュアルを作って事務局職員を割り振る準備までしておりました。今年度も実際にそれを活用すると、スムーズな対応ができるかというふうに認識しておるところでございます。

西山忠男 委員

ということは、試験そのものは実施するという考えですね。

松島孝司 学校教育部長

昨年度も文部科学省からの通知等もございましたが、入試に

	関しては基本的には実施するというところで想定をしております。
西山忠男 委員	その場合、密にならないような会場を準備することは可能なんでしょうか。
松島孝司 学校教育部長	1部屋当たりの受検者の数を少なくして対応するというようなことも、シミュレーションの中に入っております。
遠藤洋路 教育長	よろしいですか。
西山忠男 委員	はい。
遠藤洋路 教育長	他に、いかがでしょうか。
苫野一徳 委員	ご質問なのですけれども、選抜の方法が学力検査プラス調査書の評定ということなのですけれども、5ページの（5）の（ウ）ですか、受検者の中で学力検査の順位と評定の順位が共に募集人員以内にある者となりますと、評定が募集人員の上からいった中で評定が足りなければ、もうその時点で弾かれるということになりますでしょうか。どちらも募集人員の範囲内でなければならぬ。
遠藤洋路 教育長	第1選考では、です。
苫野一徳 委員	第1選考。そういうことですね。
遠藤洋路 教育長	そこに入らなかった中で、（エ）のところなのですけれども、第1選考の合格者以外の人から残りの合格者を決定するということになっています。
苫野一徳 委員	第1選考での合格者のほか。
遠藤洋路 教育長	先ほど苫野委員がおっしゃったように、学力検査の順位と評定の順位が、例えば100人募集だったら両方100番以内の人は、まず第1選考で受かります。どっちかしか100番以内に入っていない、あるいはどっちも入っていないという方は、その（エ）のほうで、その学校長が定める基準で合格者を決定

<p>苦野一徳 委員</p>	<p>する、こういう仕組みになっているということです。</p> <p>なるほど。その際、例えば不登校の子には非常に不利になると思うんですね。私も高等学校等改革検討委員会をさせていただいておりましたので、今後、市立高等学校で特色あるといえますか、従来の学力観とはまた異なった、より探究的な学びに没頭できるような、そういった生徒たちを育てたいという思いでそういった改革検討案等を答申させていただいたこともありますので、不登校の子どもであったりとか、いわゆる学制的な評定でバサッとバサッと、というわけじゃないんですけども、不利になってしまうということを、少し緩和できたらなというふうに個人的には思っております、今日はそれを審議するような場ではないと思うんですが、一応提案を、いつか議論をさせていただけたらなというふうに思いまして、お尋ねをさせていただきました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。今日ということじゃないということであれば、次の年からということでもいいですか。</p>
<p>苦野一徳 委員</p>	<p>そうですね。もう時期的にそんな、かなり大改革になりますので、そういうことをやってしまうと。今というわけではありませんけれども。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>高校改革の議論で入試の方法についても、今後議論をするんだとは思いますが、その状況を今教えていただいてもいいですか。</p>
<p>濱洲義昭 学校改革推進課長</p>	<p>今年度、高校改革の基本計画を市のほうでつくるということで進めています。予算をいただいております、基本計画のベースとなる学校の作り方の提案を民間の業者に提案いただこうと考えています。そこから大枠が決まっていったら、答申でいただいた市立ならではの特色として、いろいろな生徒を受け入れる方策を詰めていく中で、選抜の方法を検討することになると思います。今のところは具体的などころまではいたっておりません。</p>
<p>苦野一徳 委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>

遠藤洋路 教育長	学校改革、学校全体の改革の中で、当然、入試についても改革をするわけですが、その前にそれを待たずに、例えばすぐ来年度なら来年度入試だけ改革を行うのか、あるいは2年後か分かりませんが、全体の改革とともにやる、それまでは今のままやるという選択肢もあるんだと思いますが、その辺は苦野委員はどうですか。
苦野一徳 委員	もしも来年度の入学者向けの選抜の方法を変更するとなると、デッドラインというのはいつ頃になりますでしょうか。そのような議論をする余裕があるのかどうか。あるいは、この委員会でそういったことを決定する権限があるのかどうかも含めて。
遠藤洋路 教育長	決定するとしたら、この入学者選抜の基本方針というので決めるので、今日はこの2021年度、令和3年度のを決めますよね。だから次のタイミングとしては1年後ですよ。それを決めるデッドラインがいつかという。
苦野一徳 委員	はい。
遠藤洋路 教育長	この辺はどうですか。デッドラインは1年後なんですけれども、案をつくるという意味で、ということですよ。ある程度、そのスケジュールを今日いきなりここで議論して決めるんじゃなくてどのぐらい前から議論したらいいのかということですよ。
苦野一徳 委員	はい。
遠藤洋路 教育長	それは、どうですか。
松島孝司 学校教育部長	恐らく今年度内には、粗方の方向性をしっかり打ち出さないと、本市だけの問題じゃなく県との調整とかも入試問題の部分でございますので。そのあたりも考えると、やはり今年度の1月、2月ぐらいには方向性が固まらないとちょっと厳しいかなと認識しております。
苦野一徳 委員	ありがとうございます。

遠藤洋路 教育長	<p>受ける人がいますから、受ける側にとってもある程度早めに知っておかないといけないですからね。</p>
苫野一徳 委員	<p>そうですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>県のほうの入試問題は使っていますけれども、入試問題を使っているからといって、全く同じ採点とか基準である必要はないということですね。</p>
松島孝司 学校教育部長	<p>はい。県の委員会というよりも、今、教育長もおっしゃったように、各学校、中学校のほうです。市外の学校の子どもたちも受けますし、そこも含めて早めに変更なら変更で、少なくとも1年前ぐらいには伝えないと厳しいのかなというふうには考えています。</p>
西山忠男 委員	<p>今の県との調整の話なんですけれども、県の教育委員会が作成した問題を数学とか英語とかは使っているわけですよ。と書いてありますよね。それがちょっと違和感があって、市立学校の独自性を出そうとするならば、入試問題も市立学校なり市の教育委員会なりがつくるべきではないかと思うんですけれども、これまでそうしてこなかったのはどういう考え方からなんでしょうか。</p>
松島孝司 学校教育部長	<p>入試問題そのものにつきましては、かなり膨大な労力がかかるという部分もございまして、県教委も専任のスタッフにおつくりいただく、かなり時間をかけて丁寧な作業をされておるといことで、様々な課題がございまして、現段階では同じ問題を使用しているという状況でございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今、高校改革の議論をしていて、当然、学校の独自性を高めるということ、今後大きな高校改革の中では県の問題を使うということについても見直していくということなんです。これまでは主にそういう労力とか、人手とか物理的な問題で、市独自で高校の入試問題を作ることができていないということですよ。やっちゃいけないとかそういうことではなく、それだけのマンパワーがこれまでなかったとか、そこにかけていなかったということだと思いますので、それを新しくこれからは市でやっていくんですということであれば、それはそ</p>

	<p>ういう体制をこちらとしても取るということですね。</p> <p>苦野委員がおっしゃるように、入試自体の改革を行うのであれば、今、県が作っているような問題をそのまま作るわけじゃなくて、大分違うものになるでしょうから、同じだけの労力がかかるかどうかは分かりませんが。県としては少なくとも、かなり人手もかけて時間もかけて作っているということです。2校しかありませんからそれを使ったほうが合理的だというのが、これまでの市の考え方だと思います。</p> <p>他にはよろしいですか。</p>
苦野一徳 委員	<p>一応確認として、先ほど申しあげました評定の取り扱いと入試問題の在り方、入試改革全般はこの委員会で、どこかのタイミングでぜひ議論できる機会をつくっていただけたらありがたいと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p>
泉薫子 委員	<p>そういう入学の基本方針を考える場合には、どういった子どもを育てるかというか、高校自体の方針がどういったものになっているかというのが分かっていかないと、入学の改革もそれに合わせたものにしていく必要があるかと思いますので、そういったことも一緒に教えていただければと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>先ほど課長から説明があったように、今年度基本計画をつくるんですけれども、それと並行してこちらでもそういう議論をしていくということによろしいですか。</p>
泉薫子 委員	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そうしましょう。</p> <p>他にありますか。よろしいですか。</p> <p>他に発言がないようでしたら、採決を行います。</p> <p>議第47号 令和3年度（2021年度）熊本市立高等学校入学者選抜の基本方針の制定について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。</p> <p>（異議なしの声）</p>

遠藤洋路 教育長	ご異議なしと認めます。 議第47号は原案のとおり決定いたします。
〔採決〕 【原案どおり承認された】	
・議第48号 熊本市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について	
《川上 敬士 総合支援課長 提案理由説明》	
〔採決〕 【原案どおり承認された】	
・議第49号 令和3年度（2021年度）平成さくら支援学校入学者選抜基本方針の策定について	
《若杉敏郎 特別支援教育室長 提出理由説明》	
遠藤洋路 教育長	では本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。
西山忠男 委員	参考までに教えていただきたいんですけども、これまで倍率はどれぐらいだったのでしょうか。
若杉敏郎 特別支援教育室長	昨年度、令和2年度の入学者選抜におきましては、27名が志願いたしまして24名が合格いたしました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	私から1点質問、今聞くのも何だということなんですけれども、3ページに新旧対照表というか、令和2年と3年の比較があります。赤い字になっているところが変更点だということだと思んですが、(1)の出願資格のアです。これは令和2年度は「中学校若しくは特別支援学校の中学部」という、こういう順番で書いてありましたけれども、令和3年度は「特別支援学校の中学部」が先に来て「中学校若しくは義務教育学校」と、順番が逆になっているわけですが、これは何か理由があるんですか。

若杉敏郎 特別支援教育 室長	昨年度は本市のほうで中学校を先に書くというかたちを取 ておりましたけれども、県の記載に揃えたということでござい ます。
遠藤洋路 教育長	これは、特別支援学校中学部を卒業した人を優先するという ことなんですか。そういうことではなくて。
若杉敏郎 特別支援教育 室長	そういうことではございません。
遠藤洋路 教育長	今まで書いていたのと県のものを見合わせたら違ったから、 県のやつと同じ順番にしましたということなんですかね、今の 話だと。
若杉敏郎 特別支援教育 室長	はい、そのとおりでございます。
遠藤洋路 教育長	学校教育法とかの順番で言うと、中学校の方が先な気がしま すけどね。まあ、どちらでも意味は変わらないんですけども、 普通、法令に書いてある順番で言うと、小学校、中学校とかが 先で特別支援学校が後に書いてありますけどね。
若杉敏郎 特別支援教育 室長	法令までは確認しませんでした。
遠藤洋路 教育長	まあ、意味は変わらないからどっちでもいいんですけどね。 これでいいですかね。分かりました。 他にご発言はありませんか。よろしいですか。 ご発言がないようでしたら、採決を行います。 議第49号 令和3年度（2021年度）平成さくら支援学 校入学者選抜の基本方針の策定について、ご承認いただくこと にご異議、ありませんでしょうか。 (異議なしの声)
遠藤洋路 教育長	ご異議なしと認めます。 議第49号は、原案のとおり決定いたします。

[採決] 【原案どおり承認された】

- ・議第50号 熊本市教育の情報化検討委員会の委員の委嘱について

《本田 裕紀 教育センター副所長 提案理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

- ・議第51号 熊本市公民館運営審議会の委員の委嘱について

《青山 和人 生涯学習課長 提案理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

- ・議第52号 臨時代理について

《福島慎一 教育政策課長 提案理由説明》

西山忠男 委員

コロナ対策関連の予算が大半だと思いますけれども、1つ気になっていますのは、オンライン授業を行うのに小・中学校はタブレットが3分の1ぐらい配付されていると伺っていますけれども、市立高校は全くタブレットがないという話を前に聞いていたので、そこは予算の手当てはなされたのでしょうか。それとも、今後なさる予定なのでしょうか。

塩津昭弘 教育次長

高校ですけれども、5月の補正で校内LANについては、国の補助対象になっておりまして、2分の1というようなことになっておりますので、そのWi-Fi環境まで構築するというようなことにはなっておりません。今回は、端末等については、これには入れておりません。国の補助対象ではございませんでしたのでそこは考えておりませんで、現在のところ、高校には各先生方にはタブレットを配付いたしまして、それから生徒の情報端末等について調査をしてそれでオンライン授業等もされたというふうなことです。今後はこの媒体を活用してオンライン授業、それから普通の授業の中でタブレットが使われる

	<p>ように推進していかなくてはならないというふうに考えております。</p>
西山忠男 委員	<p>取りあえずは、生徒の皆さんがお持ちのパソコンなりスマホなりでオンライン授業をやったということですよ。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>はい、そうでございます。</p>
西山忠男 委員	<p>私、前に協議会で千原台かどこかの先生から、タブレットが全くないので何とかしてほしいという要望を受けたのを覚えていますので、今後、ぜひ整備していただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>高校は、今説明があったとおり、ネットワークの整備を今やりますが、当然ネットワークを整備するということは、端末を使うためにネットワークを整備するわけですから。ただ高校の場合は、まずどういう端末を使うのかという、小学校とか中学校と同じでいいのかという問題もありますし、義務教育ではないので誰の負担で端末を整備するか。1つは市の負担という方法もありますし、もう1つは保護者の負担で整備する方法もありますし、あるいは一部補助をするという方法もあるかもしれません。そのあたりもまだこれから決めるということです。まだ決まってははいないんですよ。これからですよ。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そこはどうか、今後検討していかなくちゃいけないと思っています。当面はだから家庭の環境を使っていただきますけれども、いつまでという今後のスケジュールみたいなものはあるんですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>まだ、そこまでは決めておりませんが、早急にそこら辺について検討を進めたいと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>Wi-Fiの整備は、今年度ですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>はい。</p>

遠藤洋路 教育長	だから、当然そのまま1年も2年も放っておくわけにはいかないんでしょうから、少なくとも来年度からは、何らかの端末を使うようなことは考えていかなきゃいけないということでしょうね。
塩津昭弘 教育次長	はい。
遠藤洋路 教育長	他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。 では他にないようでしたら、採決を行います。 議第52号 臨時代理について、ご承認いただくことにご異議ありませんでしょうか。 (異議なしの声)
遠藤洋路 教育長	ご異議なしと認めます。 議第52号は原案のとおり、決定いたします。

・議第53号 熊本博物館協議会の委員の委嘱について

《田端 文一 熊本博物館長 提案理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

日程第4 報告

・報告(1) 令和2年度(2020年度)実施 熊本市立学校教員採用選考試験の志願状況について

《岩崎高児 教職員課長 報告》

遠藤洋路 教育長	本件は報告ですので採決はしませんけれども、ただいまご説明があった内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。 全体として応募が少し減って採用が少し増えているので、倍率が下がっているというような、こういう状況だということですね。
----------	--

小屋松徹彦 委員

たしか前回ぐらいのときに途中経過の数字を見たときに、今年はちょっと募集される方が多いなという、確かそういうイメージだったんですよ。多分、今年はコロナの影響で一般企業は厳しいから、公務員の方に流れたんじゃないかと言っていましたけれども、いざ終わってみたら、やっぱり減っているということで、非常に深刻な問題なのかなというふうに、今年は確か大卒の就職内定率というのが非常に低くて、まだ60%ぐらいなんです。そういう状況にあるにもかかわらず、教員に成り手がどんどん減っているというのは、これは何か大きな問題があるんだろうなということで、そこをしっかりと分析してやっついていかないと、どんどんこの傾向は顕著になっていく可能性があるなど、ちょっと危機感を覚えます。

遠藤洋路 教育長

おっしゃるとおりで出だしはよかったですけれども、募集期間の最後の方で結構少なくて、トータルで見ると去年よりも少なくなった。前半、中盤ぐらいまでは去年より多かったんですけれども。市役所の応募は、聞いているところだと去年の倍ぐらい来ているということでして、やっぱり民間から公務員、民間の景気が良くないので公務員志望という流れは確かにあるようで、教員だけが人気がない、こういう状況になっているということです。非常に深刻に受け止める事態だというふうには思います。

西山忠男 委員

教員になるために取らなければならない単位とかが非常に増えているんですよ。それで教員になりにくい状況が実は生まれているんですよ。教職実践演習ですとか、それから教育実習もかなり強化されていますし、良い教員を育てるということでそうになっているんですけれども、実際にはそのために教職を志望する学生が教育学部以外の開放制学部では減っているんです。それも大きな要因。あとは、教育学部のほうでしっかりと教員になる学生を育てて指導していただくというのが大事だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っておりますけれども。

塩津昭弘 教育次長

やはり、現場を知ってもらおうというようなことがとても大事なかなというふうに思っているんですけれども、実習の期間も短くなるというような状況でして、そこを打開しようというようなことで、先ほども予算の説明がありましたけれども、学習指導員というふうなかたちで、大学にはこちらの方から声をかけ

	<p>ましてバイト感覚にはなりますけれども、現場の良さを知っていただくというようなことで呼びかけたいと思っております。各学校2名ずつの枠がございますので、そこを積極的にお知らせすることで現場に来ていただきたいというふうなことで努力はしようと思っております。</p>
西山忠男 委員	<p>教育学部だけではなくて、開放制学部にもアナウンスをしていただけるとありがたいと思いますけれども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今のは現場の良さを知ってもらうということですが、現場を知ったら応募したくなるんですか、それともしたくなくなるんでしょうか。可能性が両方あるかもしれないと思うんですけれども、いかがですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>それは、両方可可能性があるんですけれども、実習に行くことでやりがいを感じるという学生が非常に多いというふうに聞いております。実際、私自身も教員だったときに実習生を持って、気持ちが変わったと言っていたのでやりがいは十分感じられると思うので、今、ブラックだとかそういうふうな声で手を挙げないというような方もいらっしゃるかと思いますので、ぜひたくさんの方に現場に行っていただきたいと思っておりますし、子どもを育てることの良さ、そこについては現場に行ってくださいと分かるんじゃないかなというふうな認識を持っています。</p>
泉薫子 委員	<p>その点についてお聞きしたかったところです。子どもと接して、子どもを育てたいと思って教育学部には行かれると思うんですけれども、さらに教員の働き方改革を進めてその良さが分かるような職場にしていけないと、なかなかこれは改善できないんじゃないかと思っておりますので、そちらのほうをぜひ、もっと積極的に働き方改革のほうを進めていただきたいと思っております。要望でございます。</p>
苫野一徳 委員	<p>教育学部の教員としていろいろ思うところがあるんですが、毎年、教育学部でもアンケートを取って、ご懸念のとおり、教育実習に行って教員志望をやめたという学生がかなりの割合でいるんです。それはもちろん、多忙さというのが一番大きいんですけれども、ただ熊本市の場合は、全国に先駆ける働き方改革の先進地域だと思いますので、そちらをもっと知らない学</p>

生が多いんです。私は結構授業ではよく言うんですけども、時間創造プログラムなどについて言うんですけども、知らない学生が非常に多いのでこれはもっとアピールしてよいのではないかなとは思っています。

あと、学習スタッフのようなところで1つお願いしたいと思うのが、例えばヨーロッパなんかは、そもそも延べ半年ぐらい教育実習に行く国が多いですけども、日本はそれは圧倒的に少ないですね。今年は特に少なくなっちゃいますけれども、そのときに実習生というものをヨーロッパは完全に仲間として非常にリスペクトして、一緒に子どもたちを支えていく仲間としての意識が非常に高いんですけども、そういった同じ仲間として、支え合う仲間というそういうかたちで、もちろん指導をしなきゃいけないところは指導をしなきゃいけないんですけども、「ああ、やりがいがあるな」という、そのやりがいを分かち合えるような体験の場にしていただけたら、ありがたいなというふうに思っているところです。

遠藤洋路 教育長

教育学部の学生に対して教育委員会の説明会というか、リクルーティングというんですか、そういうのは大学側から見たらどうですか。全然、今は知らないというお話もありましたけれども、あまり積極的にやっているようには見えないですか。

苫野一徳 委員

いや、熊本市の説明会はどれくらい来ていますか。

遠藤洋路 教育長

そこはどうか。

塩津昭弘 教育次長

3年生を対象にやっているんですけども、そう多くないというふうなことです。熊大自体が熊本市出身者が少ない、熊本県出身者が少ないということで、あまり多くないというふうな状況はあります。今回は特にタブレットを使っていただくというふうなことで、体験型の説明会をやりまして、非常にやる気を起こして、ぜひ熊本市で、というふうな学生さんが非常に多かったと聞いております。ですから、どこに熊本県出身者で熊本でやりたい人がいるかというようなことを、リサーチしなくちゃいけないという状況かなというふうにも思っております。

遠藤洋路 教育長

ただそうはいつでも、受ける大学の中で一番多いのは熊大なんですよね。熊大教育学部が一番多いんでしょうから、あまり

	<p>いないから、あまり来ませんということではないと思うんですよ。熊大教育学部にいなかったら、他のところにはそんなにもっとたくさんはいないと思うんで、熊大から見ると、「えっ、やっているんですか」ぐらいな感じなんですかね。</p>
苦野一徳 委員	<p>それはないとは思いますが、でも知らない学生が多いのは事実なんですよ、私の肌感覚ですけども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>実際、大して来ないということですから、知らない人が多いということなんでしょう。何かもう少しいい説明会とか宣伝の仕方があるといいですね。それは苦野委員にも聞きながら、ちょっと考えましょう。</p>
出川聖尚子 委員	<p>今、3年生の説明会があるというお話を伺ったんですが、さつき泉委員が言われたように、教育学部に入ってこられる学生さんは教育をしていきたいと思っていられる方が多いかなと思うので、1・2年生のうちから、学校のことを知ってもらうという関わりが持てるプログラムなどを考えられるといいのではないかなと思います。</p> <p>1・2年生の勉強をしているときに、だんだん教員はもういいかなと思ってきたりするような気がしています。私の大学も保育士を養成していますが、幼稚園教員と。大体、1年生は座学が多いので、そのときになかなか、もう保育士はいいかなと思って挫折したりする学生も少なくないので、1年生や2年生のうちに関心を持つような機会の場が必要だと思っているので、そういう機会を教育委員会のほうから学校のほうに投げかけるといいのではないかなと思っています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ありがとうございます。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>私も同じようなことを考えていまして、今、苦野委員に聞いたかったですけれども、3年生だけですか、教育実習をやっているのは。</p>
苦野一徳 委員	<p>いえ、一応、先ほど西山委員がおっしゃったように、1年生のときから教職実践基礎演習というのが始まりまして、3年生で附属校へ行って、4年生で協力校、一般の公立学校に行くと</p>

	<p>いう感じです。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>1年生から実習は、実際にあることはある。</p>
苫野一徳 委員	<p>現場経験は積むという感じです。ただこれが諸刃の剣になっているところもなくはないというところは確かにあるので、それですごくやる気になったという学生ももちろんたくさんいるんですけどね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>事務局にいる人たちはそれで教員になった人ですから、しかも何十年か前に。最近の学生で、しかも教員になるのをやめた人の意見を聞いてみたほうがいいのかもかもしれませんね。ただ、そういう人たちを採用して、採用してから辞められても困るんですけれども。非常にその辺は難しいですけれども、当然母集団というか分母が多いほうが、いい人も多いということなんでしょうから、受けなかった人、この辺の対応をこれから真剣に考えていかなきゃいけないと思います。よろしくお願いします。</p> <p>他には意見はよろしいですか。</p> <p>他になれば、本件は以上といたします。</p>
<p>・報告（2）令和2年度（2020年度）実施 熊本市立学校管理職採用選考試験について</p>	
<p>《岩崎高児 教職員課長 報告》</p>	
遠藤洋路 教育長	<p>では、本件についてご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p> <p>できるだけ若い人を登用したいということで年齢要件をなくしたということで、校長は今まで50代後半の人が多かったわけですけれども、できるだけいろいろな年代の人にもやっていただけるといいかなと思っていますので。</p>
苫野一徳 委員	<p>別の自治体なんかだと、教頭の成り手がいないというような話もよく聞きますけれども、熊本市はどれくらいの方が受けられるのでしょうか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>実際に受ける人の数と採用の数、去年でいいですけれども、</p>

	どんなふうでしょうか。
岩崎高児 教職員課長	ちょっと、正確な数はないんですけども、200人ぐらいかと思います。
苫野一徳 委員	ありがとうございます。
遠藤洋路 教育長	教頭ですよ。200人ぐらい受けて、何人ぐらい合格するんですか。
岩崎高児 教職員課長	数十、50人程度です。
遠藤洋路 教育長	くらい。年齢要件を撤廃したらもっと受ける人が増えるんですかね。
岩崎高児 教職員課長	それを期待しておりますけれども。
遠藤洋路 教育長	10年だから、30代でも十分受けられるということですね。
岩崎高児 教職員課長	10年以上は教職経験をということにしております。
遠藤洋路 教育長	そういう、受けてもらえることを期待しております。
小屋松徹彦 委員	ちなみに、今一番若い教頭先生というのは何歳ぐらいでなれるんですか。30代の方はいらっしゃいますか。
岩崎高児 教職員課長	今の年齢要件は40歳以上です。
小屋松徹彦 委員	40歳でしたから、今まではいなかったんですよ。
遠藤洋路 教育長	一番若くても40代半ばぐらい。
小屋松徹彦 委員	40の方はいらっしゃいましたか。
岩崎高児 教職員課長	半ばから後半にかけてという感じです。
小屋松徹彦 委員	そこは少し若年層からなれるようになっていただくと、校長も結構若くしてなれるから先が長くなると思うんです。それは

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>いいなと思います。早めに若手を登用していくというのは。</p> <p>受けるのは、例えば教頭選考を受けるのは、本人が受けなければ受けられるんですか。それとも校長が受けさせてくれないというようなこともあるんですか。</p>
<p>岩崎高児 教職員課長</p>	<p>それは本人の意思だけで受けられます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>おまえにはまだ早いとかといって結局、40代にならないと誰も受けさせてくれないとか、そういうことがないように。分かりました。それがあつたら意味ないから、年齢要件を撤廃したって。じゃあ、それはないということですね。</p> <p>他にありますか。いいですか。</p> <p>では他になければ、本件は以上といたします。</p>
<p>・報告（3）令和2年第1回臨時市議会報告について</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>次に、報告（3） 令和2年第1回臨時市議会報告について、これは事務局から事前に委員の方々に資料を送付しております。内容につきましてご意見、ご質問がありましたらお願いします。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>臨時休校による児童・生徒への影響という項目がございましたけれども、現在、把握されている範疇で、特に臨時休校に伴って問題が虐待とか、昨日テレビの報道で、南区で10歳の児童が虐待を受けたという話がありましたけれども、そういう虐待の事案とか経済的困窮の事案とか、臨時休校の間の問題が起こった生徒というのはどれぐらいいたか把握されておられますでしょうか。</p>
<p>川上敬士 総合支援課長</p>	<p>虐待の受理数、それから虐待の相談件数を毎週集計してまいりましたが、臨時休校期間中は、ゴールデンウィーク明けが虐待相談が増えたという結果が出ております。昨日報道されたものにつきましては臨時休校が影響というものではなくて、学校からも情報はいただいておりますけれども、そういう影響での虐待ではなかったということでした。若干相談件数は増えておりますけれども、子ども政策課からデータもいただきましたが、前年度と比べればそんなに大きな相違はなかったと考えて</p>

	います。昨年、一昨年、全国でも虐待事案が増えましたので、相談件数自体が増えている状況の中での増加の範囲と考えられるということでした。
西山忠男 委員	分かりました。
遠藤洋路 教育長	つまり、年々虐待の相談が増えてきていて、去年よりは今年が多かったけれどもそれは年々増えている、そういうペース等から見て基本的には変わっていないという感じですね。
川上敬士 総合支援課長	ほぼ同様の範囲内です。
遠藤洋路 教育長	増加ペースが今までの年より多かったということではないということですね。
川上敬士 総合支援課長	はい。
遠藤洋路 教育長	休校だったのにゴールデンウィーク明けに多いというのは何か、みんな元々休みなのに関係があるんですかね。
川上敬士 総合支援課長	ゴールデンウィーク明けの集計が多くなったのは、結局ゴールデンウィークでほとんどの家庭がお休みだったということではないかと思います。
遠藤洋路 教育長	保護者も休みだったからということですか。
川上敬士 総合支援課長	はい。そういうことでの相談の増加ではないかなと思います。
遠藤洋路 教育長	子ども側というよりは、保護者の側の事情ということですね。
川上敬士 総合支援課長	はい。
遠藤洋路 教育長	分かりました。 他にはよろしいですか。 休校中の学習面はこれから自由討議を行いますので。 じゃあ、よろしいですかね。 では、他になれば、本件は以上といたします。

日程第5 自由討議

・テーマ「休校期間におけるオンライン授業の実施状況等について」

《本田裕紀 教育センター副所長 説明》

遠藤洋路 教育長

では自由討議ということで、30分ぐらいを目安にということなんですけれども、今のも見て、休校中のオンライン授業の実施状況等についてということで、ご意見がありましたら、何でも自由にお願いたします。

西山忠男 委員

前回の臨時教育委員会の際に、夏休みの日程を決めるときに参考資料として、オンライン授業の効果がどれぐらいあったかというアンケート結果が出まして、それに対して私がコメントをいたしました。覚えておられると思いますけれども、学校によってもものすごく評価が分かれたんですね。オンライン学習効果があったという学校と、あまりなかった、ほとんどなかったという学校が大きく幅があったので、これは一体どういうことだろうとずっと気になっております。そのことの分析といえますか、どうしてそういうふうになっているのか教えていただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

遠藤洋路 教育長

学校ごとにオンライン授業に対する評価が非常に違ったということについて、ということですね。

本田裕紀 教育センター副所長

それはまず1つは、環境の差というのがあったと思います。環境がとても整っているところと、不足したところによって、また、カメラとかもついているとか、ついていないとかという差があったりしたところがあります。

それからもう1つは、準備期間として研修ができたのは本当に1回だけでした。3月から本当に短い時間で私どもも準備しましたし、それで学校から4月6日と7日のどちらか1日だけ来てもらいました。密にならないかたちで、半日学校から2人来ていただいて、それを持ち帰ってもらって学校で広めてもらって、それを子どもたちに説明するということがあったんですが、子どもたちに説明できた期間というのも、あのときは3日間しか登校日がなかったので、ご存知のとおり、その中でももちろん教科書を配ったり担任の紹介をしたり、実際にこのオンライン

	<p>授業に関して説明できたのは、本当に限られた時間だったかなというふうに思っています。そのあたりがもう1つの理由です。</p> <p>あと、小学校である程度取組が進んだのは、去年1年間ずっとタブレットを使った授業改善を進めてきておりましたので、結構抵抗なくというか、その授業をそのままをオンラインの中でも生かしていく、日頃やっている授業を生かしていくということができたのかなというふうに思いますけれども、中学校は、先生方が、さっきのようなタブレットを使った授業をしたことすらなかったので、そこについてはとてもハードルが高かったんじゃないかなというふうに思っているところでございます。</p>
西山忠男 委員	<p>環境の差というのは、今後、是正されていくと考えてよろしいですね。どこの学校も整備されていくと思うんです。あとは、だから教員の習熟と、それから子どもたちの受ける側の習熟ですね。それについても、今回の経験を踏まえて、多分良くなると期待してよろしいのでしょうか。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>日頃の授業が変わらなとなかなか難しいと思いますが、今、中学校のほうにもずっと指導主事が回って、授業改善を進めていくという取組を進めているところでございます。学校からも他の学校はどんなオンライン授業をしてきたのかとか、また今後、こういったことがあるときにどう取り組んでいったらいいのかとかいう研修に対する要望も上がっておりますので、そういったところも指導主事のほうで学校を回ってご支援していきたいと思えますし、授業イメージを共有できるようなものをホームページ上でも公開したりしていきたいというふうに考えているところでございます。</p>
西山忠男 委員	<p>昨日、ネットの記事で見たところによると、全国の公立の小・中学校でオンライン授業が実施できたのは僅か5%だったという記事が出ていまして非常に驚いたんですけども、それからすると、熊本市は非常に進んでいると理解してよろしいでしょうか。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>全国で5%というのは、そのとおりです。確かにいろいろ、今、言われていますように、差はあったということは、十分認識しております。ただ自治体として何とか限られた環境の中でもできたというのは、熊本市はそこは先生方がとても頑張っ</p>

西山忠男 委員

いただいたし、そこは評価できることであるというふうを考えております。

ありがとうございました。

遠藤洋路 教育長

環境面は、確かに1人1台に、少なくとも今年度中というか、遅かれ早かれなりますので、この点は改善されるんだと思います。

あと授業の、日頃から授業の上手い、下手というんですか、やり方がいろいろ差はあるわけです。日頃から上手い授業ができないのにオンライン授業だけ急に上手くなることはないの、日頃やっている授業のやり方が基本的に反映されるわけで、そこは日頃の授業の改善というところが必要になってくる。

ただ、今回はオンラインで授業を試みることによって、それが分かりやすくなった面もあると思うんです。日頃の授業のよかった点、悪かった点がより見えやすくなった。だから日頃の授業の改善にも繋がるということだと思うので、そういう点では非常にいい機会だなと思っております。普段できないことはオンラインでもできませんので、オンライン授業だけ抜群にうまい先生がいたらずっとオンライン授業で、そういう人はいないでしょうからね。

苦野一徳 委員

今日、ちょうどウェブ記事が、私もたくさんの全国の先生方から聞いていたんですけども、各学校で意識の高い先生方はオンライン授業をやりたい、どんどんやりたいといって申し出ても管理職や教育委員会にどんどん潰されたと、すごくその例が多いんですね。そのことを考えると、あとこれも他の自治体のことを言うのはどうかと思いますけれども、福岡市や寝屋川市なんかは、オンライン授業は不登校の子には受けさせない、コロナで来られない子だけだというようなことをやった。それに比べて熊本市は、ちゃんと不登校の子たちにもそういった機会を与えているというようなことが、メディアでも大きく取り上げられていて、他と比較してどうこうというのはあまりお上品じゃありませんけれども、そのことに関してまずは教育センター、それから教育委員会事務局の皆さんに最大限の敬意と感謝を表したいなというふうに思っております。

教育学者として、これはセンターはプロフェッショナルですので、私がどうこう言うようなことではないんですけども、

次のステップがあると私は思っているんです。それが自由進度学習、学びの個別化です。それぞれが、それぞれのペースがありますので、それを生かせるというのがオンライン授業の最大の魅力で、しかもそこで学び合いも必ずできる。それぞれの子が、それぞれのペースで進んでいるのが可視化される中で、例えば誰かにヘルプを求められるとか、自分はこんなことを助けられるよというようなことをできるような場があって、そこで進度は違うんだけれどもお互いに助け合える場、場合によっては学年を越えてもいいわけですよ。そういった、これは恐らく、ほぼ最終ステップぐらいでそういったことが必ずオンラインではできるんです。

あと、これももうご存知のことと思いますけれども、「ブレンディッド・ラーニングの衝撃」という本がありまして、これはアメリカの、まさにおっしゃっていたオンラインとオフラインのブレンドのやり方、無数のやり方、グッドプラクティスが、たくさん載っている本当にいい本がありまして、そういったものも勉強すれば必ず役に立つと思います。

それから、これも有名なアプリで「Q u b e n a（キュービナ）」というのがありますけれども、算数・数学に関して、これは麹町中学で実証研究をされましたけれども、1年間のカリキュラムを半分ぐらいの時間で終わっちゃうんです。例えば、そういったQ u b e n a（キュービナ）、これもまさに自由進度といいですか、個別のペースで進められる。こういったAIを使ったようなもの、こういったものも存分に活用していくとすごいことになるんじゃないかな、何かこういった例を見てここまでできるって本当にすごいことだなと思ったんです。だからこれをどんどん進化させていってブレンドもできるようにしていけば、様々な子どもたちに、本当に最もその子どもたちが安心して、最も自分に合った仕方の学びの環境をカスタマイズすることができるなと思って、すごくワクワクさせていただきました。ありがとうございました。

遠藤洋路 教育長

休校中だからということもあって、普段と違う環境でいろいろやったという面もありますから、今、苫野委員がおっしゃったように、これから、普段学校を通常どおりやりながらどんなことができるか、どんなふうに発展していけるのかというところが大事になるんだと思います。

先ほどおっしゃっていた例は恐らく、休校中ということじ

		<p>やなくて、不登校の子どもにはオンライン授業を受けさせないみたいなのは、学校を再開した後の話なんだと思いますけれども、熊本市は、一応欠席とか不登校の子どもに対して、引き続きオンラインでサポートをしてくださいということを、方針として打ち出していますので、それをさらに進めていくということは必要なんだろうと思います。</p> <p>何か、教育センターから今の関係でありますか。</p>
本田裕紀 副所長	教育センター	<p>補足ですけれども、先ほど苦野委員からございましたQ u b e n a（キュビナ）については、今回、実証事業というかたちで、中学校3年生に夏休みの前くらいからは、中学校3年生だけなんですけれども使ってもらえるような環境を、今整えているところがございます。そういったところで、学びの個別最適化、それと探究的な学びと組み合わせて、それぞれ熊本市が提供していける環境、学んでいける環境を整えていきたいというふうに考えております。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>中学校3年生にQ u b e n a（キュビナ）を導入しますということですか。</p>
本田裕紀 副所長	教育センター	<p>今、国の補助金が入りくるかどうかはまだ内定をもらっていないんですけれども、実証事業というかたちでは行ってよろしいということまではいただいていますので、これに関して学校の先生方にも研修を今度行って、子どもたちにも夏休みから使ってもらえるような環境を整えてまいりたいというふうに考えております。</p>
苦野一徳	委員	<p>それは全中学ですか。</p>
本田裕紀 副所長	教育センター	<p>全中学です。</p>
苦野一徳	委員	<p>いや、すごいことになってきましたね。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>夏休み中に数学がみんな終わっちゃったりして。</p>
苦野一徳	委員	<p>本当ですね。</p>

遠藤洋路 教育長	普段の授業は何なのみたいな。
苫野一徳 委員	それはすごいですね。自治体レベルで全学校でという、私はまだ聞いたことがないですけども、どうなんですか。
遠藤洋路 教育長	他の自治体は分からないですね。どうでしょうか。
本田裕紀 教育センター副所長	まだ、経済産業省が出しているEdTech（エドテック）の補助金があるんですけども、それについては、今、申し込みが行われているところでありまして、それについてはまだ国からの内示というのは出ておりませんので、他の自治体がどこまでというのは、いろいろな申し込みがされているのは認識しておりますけれども、どこまでかというのは分かっていないところなんですけれども、今回は実験的にそういったところを申し込んで取り組ませていただくことができるということでの取組でございます。
遠藤洋路 教育長	国の事業ということですから、他の自治体にも同じように計画しているところはあるのかもしれないですね。まあ、分からない。
本田裕紀 教育センター副所長	はい。
遠藤洋路 教育長	他にいかがですか。
泉薫子 委員	素晴らしい成果を見せていただいて、短期間の間に素晴らしいなと思って見ていたところですけども、確かに私が知っている不登校の子どもたちも、この休校期間中にオンライン授業に参加できてきて、たくさんできております。集団が苦手な子どもで、なかなか人の顔、目を見ることができない子どもが多いんですが、Zoomでみんなの顔が見えると安心して、学校に行ってもいいかなというようなことを言い出しております。そういったいろいろな効果があるんだなと実際に実感しています。ですので、継続するというふうにおっしゃっていただいたので、学校が始まって対面でする良さもあり、オンラインでする良さもあるんじゃないかなと思いますので、ぜひ続けていただきたいと思います。

	<p>あと、子どもの特性によって、先ほどおっしゃったように集中時間がとても短い子がいて、ついていけないんですよね。だから、長時間は難しいので、そのあたりのシステムをどんなふうにするかはいかにはちょっと分からないんですけども、時間の問題というのを上手に工夫していただくと、もっと参加しやすい子どもができるのかなというふうに感じました。</p> <p>それと、やっぱり大事なのは、子どもがどのくらいその授業でその成果が、子どもが実際にどのくらい分かっているかというのをどうやって調べるかというのがなかなか難しい課題かなと思いますので、ぜひいろいろ研究をしていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>よくできているところを流しているから、よくできているように見えるのかも分からない。</p>
泉薫子 委員	<p>そうですね。いろいろな差はあるのかもしれませんが。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ただ、結構聞くのは、オンライン授業というから期待していたら、健康観察ぐらいしかやっていないという声は意外と聞くんですよ。ただ、今のやつを見ていただければ分かりますけれども、基本的にずっと授業を流すわけじゃなくて、健康観察をして課題を出して、課題を提出するというのが基本なんで、どの学校でもそういうのはやっているということで、どうしても動画でずっと50分とか45分とか授業をすることを、保護者は期待している面もあって、そうじゃないんですよということを伝えていかないといけないなと思います。</p>
泉薫子 委員	<p>そうですね。本人が考える授業というふうになっていきますから、そういうやり方でやると。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>動画でずっと見るというのは、なかなか大変ですよ。</p>
森江一史 教育センター所長	<p>本田副所長から答えましたように、各学校、本当にこの短期間のうちに先生方が頑張っているいろいろな工夫をしていたと思います。健康観察から始まったんですが、健康観察だけじゃ物足りないといいますか、こんなことがやれるんだというような声が上がってきて、功を奏したと思います。</p> <p>今、泉委員ご指摘のように、じゃあオンライン授業を何分や</p>

ったのかという、普通の小学校は45分、中学校は50分ですがとてもそんなに長くはやっておりません。せいぜい10分から15分、その15分間の中に、本来の45分の授業で得られることをどれくらい盛り込むかということなんですけれども、1時間の中に盛り込む内容をたった15分の中に盛り込むわけですが、指導する教師としては何時間分の内容をその15分の中に盛り込んで課題を提示し、あとは子どもに任せて、そして時間を決めて成果を報告させ、それを一人一人に返すという作業をやりました。

普段から一人一人の子どもを大事にすると言いますが、今回のこのオンライン授業の取組の中で、まさに一人一人から返ってきますので、一人一人の実態を十分把握できたというような感想も聞いております。改めてこのオンライン授業の良さを先生方も実感した取組になっているのではないかと思います。オンライン授業を何分やったから授業何分間という言い方をしておりますけれども、各先生方は普通の授業の何時間分のねらいを、このオンライン授業の中で十分達成できたかということ、子どもたちの学習評価をしながら、これから評価していくと思っております。

以上です。

遠藤洋路 教育長

普通の授業の何時間分もそういうところに込めてやったということであれば、普通の授業もそういうやり方を生かしてやるということもできるんじゃないかと思うんです。今回のオンライン授業のやり方を、何か取り入れた日頃の授業の改善という点については、何か教育センターのほうで考えていることはあるんですか。

森江一史 教育センター
所長

今回の取組の中で、教師の授業の進め方、また学習課題の提示の仕方の工夫を、オンライン授業を体験したことで教師は学ぶことができたと思います。子どもたちに時間をたっぷり与えること、そして子どもたちが何を学び取って、この時間に何を自分のものにしたかということの評価する、そのような授業にこれからは転換していく必要があると思っております。全て教師が進める授業ではなくて、子どもが進めていく授業というふうに、これからは授業が変わっていくよう教育センターとして支援していきたいと思っております。

遠藤洋路 教育長	<p>はい、分かりました。</p> <p>最近、苫野委員と、苫野先生が5時間しゃべるというオンラインのイベントをやっていたんですけども、なかなか大変ですもんね。でも5時間ということは、要するに子どもにとって時間割どおりに動画で授業をされると、そういう状態になるわけです。これはなかなか耐えられないですもんね。普段は、子どもはそういう授業を受けている可能性があるということです。ですから、普段の授業の改善もやっていく必要があるでしょう。</p> <p>他に。</p>
出川聖尚子 委員	<p>教員からの感想などはお聞かせいただいたんですけども、子どもたちからは、遠隔授業とかについて何か感想とか、そういったものがあつたのか、ありましたら教えていただきたいなと思いました。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>子どもたちからのアンケートにつきましては、今度、子どもたち、保護者も含めて、改めてアンケートのほうを取るように、今、計画をしているところでございます。</p>
出川聖尚子 委員	<p>はい、分かりました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>じゃあ、それもまた、分かったら教えてもらえますか。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>はい。</p>
苫野一徳 委員	<p>以前、テレビで熊本市のオンライン授業を見たときに、先生が普段、プラスアルファでやっているのが結構大変だという話があつて、これから再開された後もオンラインを続けていくということなので、より負担になるのはちょっとまずいなと思うんですけども、そのあたり何か考えられていることはありますでしょうか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今やっている学校再開後のオンラインは、できるだけ負担にならないように、別のことをやるんじゃなくて、教室でやっている授業をそのまま流してください、取りあえず。別のこと、あえて別の教材を作ったりする必要はないですよということはやっているんです。</p>

ただ今後、本格的にオンラインを使って、例えば不登校の子どもに対してやっていくということになると、ただ教室の授業を流しているだけじゃなくて、そういうオンラインの専用のカリキュラムというか、課程をつくっていく必要があるなというふうに思っています。それはそれぞれの担任がやるということではなくて、教育委員会、教育センターなり、どこか、そのための学校、指定校だか特例校だか分かりませんが、そういうところで専門にサポートする、そういう体制が取れるんじゃないかなと思っています。

たまたま今日、ちょっと具合が悪くて休んじゃいましたみたいな人は、教室の授業を中継してもらって、それを見ていけば、大体何をやっているのかなということは分かったうえで、また明日学校に行けると、まあ、行きやすくなりますよね。2～3日休むと行きづらいですもんね、学校へ。それがなくなるから、そういう意味でも行きやすくて、休む人が減るといえるのか、休んでも大丈夫になるといえますか、そういうことはあるんじゃないかというふうに思いますけれども、何か補足がありますか。

川上敬士 総合支援課長

私は、学習面はあまり分からないので、子どもたちの心の面とか不登校の子どもについて集計もやっておりますので、結果も交えながらお伝えしたいと思います。6月1日から19日まで、3週間の間で8日以上、新型コロナに感染することに不安で登校できない子が出ております。8日間でするので約半数以上休んだ子ですが、小学校が15人、中学校が10人です。これは学校の判断ですが、子どもや保護者の訴えを学校が聞いての数ですので、そんなに大きな違いはないと思いますが、オンラインで、先ほども映像であったように、担任の先生と顔が見えたり友達を見られたりしたことが、かなりストレスとか不安を抱えるだろうという予測をしておりましたけれども、それがオンライン上で繋がっていたというのが、子どもたちにとっては大きかったかなというふうに思っております。

生活の乱れについても、小学校が9名、中学校が11名と、不登校がどっと増えるんじゃないかなという心配もありましたが、逆に泉委員からもありましたように、不登校の子どもたちが多くオンライン上に出てきております。NHKのニュースでも特集がありましたけれども、中学校によっては学校再開後、完全不登校だった子が登校できるようになったということで、私たちの課としても、オンラインというものは不登校の、全部

が全部、それが当てはまるのではなくて、子どもによっては非常に効果的であるということが分かりました。学校に、センターのほうから200台、タブレットを不登校対応に準備してただけでしたので、全部の学校に希望調査を取ったら333台希望が出ました。希望があったところは、全部は配れませんでしたけれども、200台全て、不登校対応で貸し出して、休校中にオンラインで入ってきたり、繋がった子どもは、継続してそれが学校再開後もできるようにということで、今やっているところです。

それと、4月20日からSNSを活用した心のケアの相談を受けておりますけれども、先週金曜日までの集計で1,254件です。これまでの傾向と違うのは4月の相談を受けたときには3時間で84名の相談がありました。それがだんだん少なくなるとはなるとは思いますが、大体、30件ぐらいで安定していました。そして学校再開時の6月1日は62件まで一回上がったんですけれども、現在は13件しかありません。つまり、学校が始まったことで不安がどんどん上がっていくという予測をしていたんですが、逆に子どもたちは学校で友達に会えたことで安心できて、不安材料が今は減っているのかなというふうな予測をしています。ただこれは7月までやりますので、この後の様子は継続的に見ながらやっていきたいなというふうには思っているところです。

遠藤洋路 教育長

今、コロナを理由に学校に来ていない子どもの数という報告がありました。いろいろな要因を含めて、全体で欠席者が増えているとか減っているとかというのはあるんですか。比較の対象が難しいんでしょうけれども、学校再開後、休みの子が多いなという感じなのか、よくみんなたくさん来ているなという感じなのか、どんな状況なんですか。

川上敬士 総合支援課長

私もいくつか学校を回りましたが、学校再開して子どもが急に来なくなったという話は全くなくて、子どもたちは比較的、元気に、楽しく学校に来て頑張っています。1週間目は半日だったので慣らし登校ということだったんですが、6月8日からは丸一日になって、午後はかなり授業でくたびれていないですかという質問もしましたが、子どもたちは1日、しっかり頑張って授業を受けるということができていますということでした。再開後、大きな変化があるというふうにこちらは予想

遠藤洋路 教育長	<p>していましたが、学校の感想を聞くとそうではないということです。</p> <p>そんなに極端に出席が増えたとか減ったとか、そういうことはないわけですね。分かりました。</p> <p>他にありませんか。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>じゃあ、1つ。</p> <p>私も確かニュースで見たと思うんですけども、学校の先生たちが、オンライン授業のコンテンツをつくるのに非常に時間と大変な思いをされたというのが出ていたと思うんです。だからさっきも出ていましたように、これをずっと続けるとなると、先生の多忙感はますます増すばかりだなと思いながら聞いていたんですけども、それともう1つ、それと同時に思ったのは、今、大学の場合だと、サテライト授業じゃないですけども、予備校あたりの、ああいうのを普通にやっていますよね。だからもしかしたら、小・中学校の授業も、そういうかたちでコンテンツ自体というか、そういうようなことを専門にやるような先生がいて授業をつくっていったって、そこでオンラインならオンラインでも学んでいくようなシステムになって、学校の先生たちの役割というのがちょっと変質じゃないけれども、変化するんじゃないかな、先生がやることは、ちょっとまた違った方向で子どもたちに接するというか、何かそういう可能性といますか、それをちょっと感じています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>おっしゃるように、いろいろな先生の中には、そういう動画で授業、コンテンツを作るのがすごい得意な人もいるでしょうし、そういうので勉強している子どもをサポートするのが得意な人もいるでしょうし、そういう役割分担もできるのかもしれないし、1人で全部やるというのはなかなかそれは無理でしょうし、休校中にやっていたことをそのまま再開後にやるのは無理ですから、それは全体の中で判断をしていくということだろうと思います。だから教育委員会で、動画を作るとかそういうものは、それぞれの先生にやってもらうんじゃなくて、教育センターなり、それ専門の先生なりにやってもらうということが基本なんだとは思っています。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>個人の先生単位ではなくて、また学校単位でもなくて、もっ</p>

	<p>と大きく今おっしゃったように、教育委員会単位でつくったやつをみんな出していくというか、それぐらいしたほうが。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>オンライン専用の組織みたいなのをつくってもいいのかもしれないですね。</p>
西山忠男 委員	<p>コンテンツに関してはそれでいいと思うんですけども、オンラインでも、話にあったように、生徒とのコミュニケーションを取る、生徒同士がコミュニケーションを取るという、これが非常に大事なんで、そのところも十分考えながらやっていくべきだと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そうですね。 何か、今の点で事務局からあれば。</p>
本田裕紀 教育センター副所長	<p>お互いにコミュニケーションを取ることなんですけれども、カードを出してそれを見合うというのは、1つ、今でもすぐできることなんですけど、1人1台がこれから整っていけば、Zoomとかを使っても、ブレイクアウトルームとって、みんながここで一斉に入って、それぞれが分かれてコミュニケーション、話し合いができるんです。そして、また一斉に戻るとか、そういったこともできていきますので、何校かはそこまでいった学校があるんですけども、そのあたりも、これから1人1台に向けて環境が整っていけば、そういったことも視野に入れながら進めていきたいというふうに思っています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>もう30分ぐらいは経ちましたけれども、他に、これだけは言いたいとか聞きたいとかがあれば。特に、よろしいでしょうか。 では、他にないようでしたら、本件は終了といたします。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>以上で、本日の会議日程は全て終了いたしました。他に何かご意見等ございませんか。</p>
大江剛 指導課長	<p>先月の教育委員会会議の中で、苫野委員から高校入試の出題範囲の件をご質問があっていたかと思います。</p>
苫野一徳 委員	<p>はい。</p>

<p>大江剛 指導課長</p>	<p>県の教育委員会から何かあったらお知らせしますとご報告しましたので、お知らせします。6月2日付けで県の教育委員会からの通知がございまして、今後の新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業の状況によっては、学力検査の出題範囲について、中学校3年生の学習内容について、使用学年が3年生である教科書の後半を除くなどの配慮をすることがあるということ、詳しくは8月の入学者選抜要項あるいは、県教育委員会のホームページ等で公表するというような通知がまいりまして、すでに中学校にも通知しておりますので、お知らせしておきます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>はい、よろしいですか。</p>
<p>〔閉会〕</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日の日程は全て終了したので、令和2年6月の定例教育委員会会議を閉会いたします。</p>